

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【いわき市立小川小学校】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	3学年 27名 4学年 26名 5学年 21名 6学年 23名 計 97名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を通して、スポーツの意義や価値などへの理解・関心を高め、障がい者を含めた多くの人たちが、生涯を通じて主体的にスポーツに参画していることを知り、自らも進んでスポーツに親しむ態度を育成する。
5 取組内容	<総合的な学習の時間「パラリンピック調査隊」> ○3・4年生による実践 【パラスポーツ体験活動を通しての学び】 3・4年生(53名、特別支援学級5名含む)では、実技を通して障がい者スポーツについて学んだ。 その際、菅野英輔氏(いわきサン・アビリティーズ施設長)をお招きして、前半は「障がい者スポーツについて」のお話をいただき、パラリンピックについての歴史や意義、その種目等について学ぶことができた。 後半は、「ボッチャ」の体験活動を行い、その競技性や得点を競う際の作戦等について学び、誰とでも交流できるよさや自らスポーツに親しむことの大切さを理解できた。



○5・6年生による実践

【パラリンピックメダリストを招聘しての授業】

5・6年生（44名、特別支援学級1名含む）では、いわき市に拠点を置いて活動している「日本パラサイクリング連盟」専務理事の権丈泰巳氏のコーディネートにより、東京2020パラサイク



リング金メダリストの杉浦佳子選手をはじめ、川本翔大選手、藤井美穂選手、藤田征樹選手の4名のパラリンピアンを招いて、パラリンピックに向かうまでの障害や道のり、その成果として得たものについて、パラリンピアン生の声を聞いたり、選手たちと触れ合ったりすることができた。

どの学習においても、実際に障がいのある選手たちと触れ合い、話を聞くことで、障がい者スポーツやパラリンピックの意義、心のバリアフリーについても感じ取ることができた。

6 主な成果

本校では、総合的な学習の時間に「パラリンピック調査隊」として、これまで障がい者スポーツや、パラリンピックの意義について学習を進めることができた。

- ① 3・4年生については、「パラスポーツ体験教室」を通して、障がい者スポーツの意義や、ボッチャという競技の特性について実技を通して学ぶことができた。
- ② 5・6年生については、東京2020パラサイクリングの金メダリストでもある杉浦佳子選手をはじめ、川本翔大選手、藤井美穂選手、藤田征樹選手の4名のパラリンピアンを招き、パラリンピアン生の声を聞いたり、触れ合ったりしたことで、障がい者スポーツやパラリンピックの意義、心のバリアフリーについても感じ取ることができた。
- ③ 子どもたちの声として、
 - ・選手たちは「アルカンシェル」という大きな目標を持ってパラサイクリングに取り組んでいることがわかった。私たちも目標を持つことの大切さに気づかされた。
 - ・「自分で決めたことは、諦めずに頑張る」という言葉が心に響いた。
 - ・監督さんも含め、選手のみなさんの思いが伝わってきてすごいと思った。
 - ・「障がい」という言葉は、どこか境界線があるような気がしたが、「いつでも、どこでも、だれでも」という言葉を聞いて、境界線をなくして生きることをあたりまえにするという目標ができた。

	<p>など、障がい者スポーツを通して、障がい者も健常者もない共存・共生社会について理解を深めることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい者としてみるのではなく、障がいのある人たちが、いかにその障がいと向き合って生活しているのか、障がい者スポーツの体験や経験談などを中心に授業を行っていただいた。 ○ 3・4年生に対しては、体験的活動を中心に進め、結果として、パラスポーツに対して興味を持つことができた。総合的な学習の時間では、パラスポーツの種目をさらに調べることで、理解を深めることができた。 ○ 5・6年生に対しては、いわき市教育委員会と連携し、日本パラサイクリング連盟の専務理事を紹介していただき、今回のパラリンピアンとの授業が実現できた。特に、子どもたちとパラリンピアンの触れ合いの時間を作ってくれたことに感謝したい。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナウィルスの影響で、オリンピック・パラリンピックが2021年に延期になったことにより、結果的に今年度も継続的に授業に取り入れ、実践することができた。しかし、コロナ禍での事業ということもあり、先方のスケジュールや開催時期、どのような形で実施するかに難しさを感じた。 ○ 今後は、障がい者の方々が身近にいるということを理解し、共存・共生の社会が当たり前のこととして捉えられるようにしたい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度までに繋いできたこの人脈を活かし、体験的活動を中心に次年度以降も継続的に授業に取り入れ、障がい者との共存・共栄の社会について、さらに関心を高めていきたい。 ○ 今回の学びを、子どもたちの実践する力につなぎ、地域社会に貢献できる児童の育成を目指したい。